



藤岡南中
学校だより

桜援団

令和8年4月17日

第842号

文責 教頭 猪田直生

GIGAびらき（学習用タブレット貸与式）4/14（火）



<学習情報担当 板倉先生の話>

今日は、みなさんがこれから使っていく新しい学習用タブレットについて「なぜこのタブレットなのか」「どう使ってほしいのか」その意味を話したいと思います。

まず、この令和8年度から、学習用タブレットが新しいものに更新されました。これは、みなさんがタブレットを持つようになってから、初めての更新です。次の更新は、今の予定では5年後、つまり、このタブレットは、これからの中学校生活、そしてその先までを見据えた5年間のための端末です。

そして大事なことを一つ話します。このタブレットは、みなさん個人の物ではありません。市から支給されている学習用端末です。卒業のときには、必ず学校に返却します。「借りている道具」ではありますが、同時に、市がみなさんに託している道具でもあります。

では、なぜこの形のタブレットなのか。今回のタブレットには、キーボード付きのケースがついています。理由は、はっきりしています。豊田市では、「これからの時代を生きる力」として、タブレットを見る、調べる道具ではなく、考え、整理し、伝える道具として使えるようになることを目標にしています。その一つの目安が、キーボードで1分間に全角80文字以上入力できること、そしてキーボードを見ずに文字が打てることです。これは、早く打てる人がえらい、という話ではありません。あなたが考えたことを、考えたままのスピードで言葉にできるかどうか、という力です。頭で考えているのに、指が止まってしまふ。これでは、考えも途中で止まってしまいます。だから、「書く力」と同じように、「打つ力」も、みなさんの学ぶ力の一部として大切にしています。容量が128GBに増えたのも、理由があります。たくさん保存できるから、というより、学びの記録を積み重ねられるようにするためです。みなさんが作ったノート、レポート、振り返り、そうした学習ログは、市の教育センターで管理され、授業をよりよくするために使われます。ですから、勝手にゲームをしたり、余分なことをしたりなど、学習に関係ない使い方をしたりするのは、自分の学びを軽くしてしまう行為です。「これは自分の成長の記録になる」そう思って使ってほしいと思います。

今年度から、タッチペンについては各自で準備してもらっています。書く、描く、考えを整理する。文字だけでなく図や線も考えるための大切な手段です。そして、使う以上、壊さないことも重要です。よくあるのは、キーボードが外れて落ちる、かばんの中で押される、持ち歩いていて落とすなどです。もし、破損・故障・紛失があったら、気づいたその瞬間に、担任や教科担任の先生に伝えてください。早い報告がみなさんを守ります。充電器とケーブルは、家で保管します。卒業まで、絶対になくさないこと。各教室にも5個ずつ充電器はありますが、あてにしないでください。家で充電してくる、それも大事な力です。

最後に、豊田市の情報化プランでは、みなさんを「つなげて生かす子ども」と位置付けています。自分と仲間をつなげる。今の自分と、未来の自分をつなげる。知識と知恵をつなげる。このタブレットは、その「つなぐ」ための道具です。正しく、大切に使用すれば、必ず、みなさんの力になります。「使わされるタブレット」ではなく「使いこなすタブレット」にしていきたいと思います。

避難訓練・通学団会4/14（火）



全校で避難訓練と通学団会を実施しました。避難訓練では、各学級からの避難経路を確認しました。校長先生から「想定に囚われない」「最善を尽くす」「率先して避難する（自分だけでなく周りも含め）」「危なくなる前に避難する」などの話がされました。緊急時に備え、家庭でも話題にしてみてください。